

新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン(抜粋)

2020.06.16付_関西学生サッカー連盟(07.21_更新)

ガイドライン策定の基本方針(2020/5/22 & 6/22_JFAガイドラインからの引用抜粋)

※各URLはクリックすると関連ページに飛びます

安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最小限とする、サッカーファミリーが安全に活動できる環境を提供する

不当な扱い・差別等の禁止

地域の感染状況で生じる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはなく、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷の発生を許容しない

リスペクト

関わる全ての方を大切に思い、困難な状況にあるサッカーファミリーに手を差し伸べ、笑顔あふれるサッカー環境を再構築すべく全力を尽くす

「新しい日常・生活様式」への適応

Beforeコロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計する

*今後のWithコロナ、Afterコロナへの設計

【前提】

試合開催等によって選手・コーチ・監督・スタッフ、観客等が感染クラスターになることを防ぎ、安全第一に行えることが、最も重要な目標と考えます。

特に、競技後には体力が低下することなどの特性も踏まえ、何より選手の負担の軽減を念頭に、以下に示す感染対策に従って行いたいと思います。

【対策を考える上での基本事項】

1. 新型コロナウイルス感染症の感染経路について

新型コロナウイルスの感染は以下の2つの経路で生じることが知られています。

(1) 飛沫感染（咳やくしゃみ、おしゃべりによる感染）

ウイルスが含まれる「飛沫」は、咳やくしゃみのみならず、おしゃべりによっても排出されます。

①多数の人が多く集まる環境、②近距離での会話、③換気の悪い密閉空間、といった3条件が重なる状況では、特に感染するリスクが高くなります。

(2) 接触感染（手で触れることによる感染）

咳やくしゃみ、おしゃべりで環境に排出されたウイルスは、テーブルなど環境表面に付着し、一定期間生存しています。

汚染した環境に触れた手指などを介して、ウイルスが粘膜（口、鼻、眼など）から侵入することにより感染が成立します。

*現時点で発表されている内容に従い策定しています。

*各々が責任を持った行動をとってください。過剰な情報に迷わされず、正確な最新情報のもとに動きましょう。

2. 新型コロナウイルスの感染時期

新型コロナウイルス感染症は、発症の2日程度前、すなわち症状のない時期から感染性があることが明らかになっています。

従って、前述した感染リスクの高い3条件が揃った状況では、症状がない場合でもマスク着用や手指衛生による感染防止策が大切です。

また症状が軽快した後も長期間PCR検査で陽性が持続する場合や、一旦陰性化した後に再度症状とともに陽性化することも報告されています。

一度感染した場合の復帰については、慎重な判断が求められます。

参考【厚労省】
「新型コロナウイルス」とは、どのようなウイルス？

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q2-1

【首相官邸】 3つの密を避けるにはどうしたらよいか

<https://www.kantei.go.jp/jp/content/000062771.pdf>

【首相官邸・厚労省】 手洗いや咳エチケット

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000593493.pdf>

【厚労省】動画 正しい手洗い方法

<https://www.youtube.com/watch?v=Eph4Jmz244A>

【厚労省】動画 マスクの正しい着け方

<https://www.youtube.com/watch?v=VdyKX4eYba4&list=TLPMQDkwnTIwMIAQRmVoseY52w&index=2>

【厚労省】 新しい生活様式

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

【厚労省】 一般の方向け(Q&A)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

選手および組織に求められる感染予防対策

スポーツ選手は強度の高い運動とストレスにより、一時的に体力や免疫機能が低下することも報告されていることから、選手の心身の負担軽減も考慮した感染防止策が必要になります。
また、選手本人だけでなく、選手と頻繁に接する方々も同様の対応が必要です。
特に、関係者や家族を含めた対策の徹底が重要となります。

(1) 毎日の健康チェックと行動記録

- ・体温測定:起床直後・就寝前など決まった時間での体温記録
- ・問診表チェック:倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間など
- ＊チームに『感染対策責任者』をおき、対象者のデータをモニタリングする
- ・行動記録:食事や出向いた場所・同行者などの記録

＊全員の体温計の準備が難しい場合、大学やチームで準備し、集合時には必ず計測するなど、工夫してください。

(2) 手指衛生の励行

- ・消毒用アルコール剤による手指衛生の励行が原則です。
- ただし、流水と石鹸による手洗いでも十分な予防効果が期待できます。

(3) 出来るだけ人ごみを避ける

- ・人ごみに入る場合にはマスク着用

(4) 施設の空調・換気状態の把握と可能な対策

- ・会場ごとの空調・換気の状態の把握と給気能力の増強や加湿
- ・空気のよどみを最小限とするよう換気・空調システムの見直し
- ・ミーティング、打ち合わせなどはなるべく屋外で行う

(5)ロッカー室・シャワー室、ベンチなどでの濃厚接触の回避

- ・ロッカー室・シャワー室等の時間差利用、可能な限り1.5～2m以上のヒートヒート間隔がとれるよう配慮するなどの空間遮断など。
- ・感染リスクを下げるため、チームを守るために、ポジションが同じ選手が可能な限り行動を共にしないなどの工夫は有効となる場合がある。

(6)ロッカー室・シャワー室、ベンチ、トイレなどにおける環境消毒とタオルなどのリネン管理の徹底

- ・高頻度接触面に対して薬品等を用いて環境消毒を行う
- ・タオルなどのリネンの共用は避ける。トイレなどの手ふきはペーパータオルを使用する
- ・トイレは使用前に便座クリーナーまたはアルコール消毒スプレーで消毒しましょう
- ・トイレの使用後は、必ず蓋を閉めましょう。便器から空気中にウイルスが広がることを防ぎます

(7) 選手、チーム関係者、家族に対する教育・啓発と意識改革

- ・マスクを使用する際の付け方、外し方、交換のタイミング、手指衛生を学ぶ(指導する)
- ・チーム関係者以外の方への協力の要請(メディアなど)
- ・人ごみに入るなど濃厚接触が生じた場合の記録(主なものを報告、あるいは日記)
- ・選手を含めたスタッフの行動記録の記載

(8) リーグ全体での情報共有体制

- ・体調不良者に関する情報共有による危機察知体制の構築

(9) チームドクターおよびチーム連携医療機関の選定と連携体制の確認

- ・疑い症例が出た場合の対応マニュアルの準備 ※後述
- ・指定医療機関との連携体制の確認

【注釈】

健康チェック(※1)を活用ください。

健康チェック(※1)に問題がある場合、当該チームの指導者に連絡して当日の参加は控えてください。

会場校は更衣室の配慮をしてください。換気や、シャワー使用後の待機場所など各チームは更衣室に長く止まらないよう注意してください。

チームドクターがいない場合、お困りの場合は当連盟に連絡ください。医事委員会と連携いたします。

(10) 安全な移動

- ・チームとしての移動や必要な移動以外の不要不急の移動は避ける
- ・試合先での外出・外食など不特定多数との接触の機会は避ける
- ・バスなどでの移動時の換気、空間遮断による濃厚接触の回避
- ・移動中もマスクを常時着用し、出発ならびに到着時に手指衛生を行う
- ・公共交通機関を使用する際には混みあう時間帯を避ける

(11) 選手の負担軽減を考慮したゲーム運営

- ・選手には発熱などの症状がなくても、必要な休養をとらせる
- ・選手の家族らへのケアができるよう、選手には必要な時間を適宜与える。

(※1) 毎日の健康チェックにお役立てください

- ① 平熱を超える発熱がない
- ② 咳(せき)、のどの痛みなどの 風邪症状がない
- ③ だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)がない
- ④ 臭覚や味覚の異常がない
- ⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等がない
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がない
- ⑦ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない
- ⑧ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がない
- ⑨ その他、気になること

チーム関係者への諸注意

制限	<ul style="list-style-type: none">試合の際の1チームの基本は、選手(20名)及び、スタッフ(監督・コーチ・トレーナー・マネージャーなどのスタッフ及び、スカウティング担当など含めて15名)まで。それ以外は試合会場に立ち入らないようにしてください(チームのカメラ撮影者も含まれます)。*1部~3部とも自チームの試合が無い日のスカウティングについては2名まで(チームのカメラ撮影者も含まれます)*運営役員(2部3部リーグを含めた大会会場の運営に必要な役員や、競技場使用の際の補助員・競技委員など)は別途カウント*応援は禁止(競技場・大学への立ち入りも禁止)	<ul style="list-style-type: none">*1部はIDを発行します。2部3部はチームジャージなど、服装でわかるようご協力ください。
試合前	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症の症状があれば参加を控えてください。チームの移動に際しては公共交通機関を推奨しますが、マスク着用と降車後の手洗いの徹底をお願いします。	<ul style="list-style-type: none">*健康チェック項目を参照無理な来場は勇気を持ち、見合わせる事が大事です。
試合中	<ul style="list-style-type: none">ロッカールームについては換気に注意し、近距離で大声を出すことを慎んでください。また、密閉空間で複数が過ごすことを避けてください。ロッカールームが狭い場合の更衣の順番についてはローテーションを組む等の工夫をする。更衣終了後は更衣室の窓とドアを開けっ放しにする。スタッフ及び選手はプレー時以外はマスクを着用してください。ベンチスタッフ及びサブ選手は間隔を空け、アップ時以外はマスクを着用してください(但し、テクニカルエリアで指示を送る際はマスクを外してよい)。サブの選手は、アップ時の他の選手との距離にも注意を払ってください。試合前の写真撮影は認められるが、社会的距離を保つこと。試合前の円陣(前後半とも)や、感染リスクが伴うハイタッチ、交代時の握手などの行為は行わないでください。ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐いたり、手鼻をかまないでください。ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも距離についてしっかりと配慮してください。選手交代後においても消毒や手洗い、うがいをしてください。試合前後のシェイクハンドセレモニーは行わないでください。試合後のベンチ挨拶も行わないでください。<ul style="list-style-type: none">*入場前の混乱を防ぐために両チーム及び審判団はそれぞれに入場し、終了後は選手、チームスタッフ、審判団は各自で更衣室に戻ってください。選手の給水ボトルは、原則、共用しないでください。	<ul style="list-style-type: none">*社会的な距離=できるだけ2m、最低1m*重要なことは感染を防ぐことです。共有をさけるだけが安全ではなく、準備の段階での接触にも注意が必要です。
試合後①	<ul style="list-style-type: none">鼻水、唾液などが付いたゴミは、各自がビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する場合は、マスクや手袋を着用してください。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸(ポンプ型の液体または泡石鹸)と流水で手を洗い、手指の消毒をしてください。通常の清掃後に、不特定多数が触れる箇所は使用前、使用後に可能な限り清拭消毒してください。メディアのインタビューの間、選手はマスクを着用してください。	<ul style="list-style-type: none">*ゴミは全て各自での持ち帰りの徹底をお願いします。
試合後②	<ul style="list-style-type: none">試合終了後3日以内に具合の悪い選手・スタッフがいる場合は、各チームの感染対策責任者から当連盟に連絡を入れてください。万が一運営スタッフの中から競技会終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、当連盟にご報告ください。*連絡・報告フォームは上述同様	

*試合中及び、試合後①については関係する方々が最大限努力して取り組んでください。

【厚労省】 熱中症予防の対策について:「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html

*高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクをはずすようにしましょう。

運営者(会場校関係者)への諸注意

前提	<ul style="list-style-type: none">・人員配置を必要最小限に絞る(明確な業務のない人は来ない)。・試合運営に関わる全員が感染対策を認知し、運営準備段階からマスクの着用、手洗いを敢行する。＊運営に関わる人全員がマスクを着用する。・前日及び当日に体調の悪い人は躊躇せず申し出て会場に来ない、足を運ばないルールを試合関係者間で事前に徹底する。・試合に関わる全ての人に健康状態チェックを促す。・健康状態チェックで準備段階で体調が悪い人がいた場合は、すぐに帰宅させる。・全て諸室のドアを全て開けた状態に保つ(換気、ドアノブを触らないよう配慮)。＊1部については補助員控室も開放しますので、荷物番を原則付けるようにしてください。・可能な限り、各諸室にアルコール消毒液を設置する(施設と連携して準備する)。・各諸室でスタッフが正面に座らない座席の配置を行い、お互いが1.5～2mの間隔を空けるようにする。・マスクを着用できないため、喫煙所は使用禁止とする。	
試合前	<ul style="list-style-type: none">・試合会場のロッカールームが狭い、換気がしにくい構造の場合、別の部屋を準備するか屋外(ピッチ脇など)にテントの仮設ロッカーを設置するなどの対策を講じる。・ベンチで間隔を空けて座れるよう、テント等で追加ベンチを設置する(夏季期間は特に、暑熱対策から屋根付きベンチの準備を試みる)。・可能な限り、更衣室、ベンチ、審判控室、トイレ等の消毒を行う(施設と連携して行う)。・トイレの個室に「流す時は蓋を閉める」表示、洗面所に「手洗いは30秒以上」の掲示を行うなど、必要な箇所への諸注意を掲示する。・競技ミーティング時はマスクを着用し、間隔を空けて実施する。ロッカールーム等における感染防止の注意点を伝える。・試合球、ゴールポストおよびコーナーフラッグポストの消毒を行う。	競技MTは換気のよい場所で全員マスク着用で実施する
ハーフタイム	<ul style="list-style-type: none">・選手、チームスタッフ、審判団等の引き上げ導線が混雑しないよう、予め確認する。・グラウンドの補修は通常と同様に実施される。・試合球を消毒する。雨天時以外はゴールポストおよびコーナーフラッグポストを消毒する。	
試合後	<ul style="list-style-type: none">・試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分する。・ロッカールーム及び審判控室の清掃を行う(必要な箇所は消毒を行う。施設とも連携する)。・担架を使用した場合は、消毒を行う。・試合球、ゴールポストおよびコーナーフラッグポストの消毒を行う。	※ゴミは全て各自での持ち帰りの徹底をお願いします。

審判員との連携

- ・審判員の健康状態の確認を行う。
- ・審判員は用具チェックを両チームのロッカー付近、または場外で行う(可能な限り、審判員は用具チェック中マスクを装着する)。
- ・試合前のセレモニーを控えてもらい、コイントスもキャプテン同士の距離を出来るだけ2m(最低1m以上)確保する。
- ・交代用紙使用の有無を伝える(有で行う予定です)。
- ・試合の記録記載のために、選手、指導者、審判員等が共通の文房具類を使用する場合は、消毒する。
- ・第4の審判員はマスクを着用し、4thオフィシャルベンチに複数名が入らないよう運営側と調整する。
- ・その他、チームに伝えている試合中の諸注意を確認する。

- * 審判団用のドリンクは試合前に数本をお渡しします。
- その他の給水については個人でご準備ください。

メディアとの連携

- ・メディア取材を事前申請制とし、会場のサイズに応じて記者の数を制限する。
- ・試合ごとに取材申請書を提出する。
- ・競技場では記者室については可能な限り設置し、扉は開放しておく。
- ・取材者と選手は2m以上の距離を保てるよう、注意を促します。

- 1団体2名までとし、学連で受け付けます。
- * カメラマン1名、ベン記者1名。
- * 来場時は用紙を持参いただきます。